重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	子どものしつけについての教育が、親に対してなされている	
施策名	家庭教育のあり方について学ぶ機会を積極的に提供する	No. 37

年度	平成28年度
責任部長	教育文化部長
主担当課長	生涯学習課長
関係課	—

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標		指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
			H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
親が子どもに対してしつけができていると思う人の割合（%）		↗	15.7	19.0	19.6	20.1	22.4	25.9	22.4
			25.9	24.4	25.1	25.7	28.6		29.2
子育て中の親に対する教育とサポートがなされていると思う人の割合（%）		↗	15.9	18.7	21.4	24.0	24.5	25.9	22.5
			25.9	25.3	25.8	26.8	29.5		28.6
家庭において道徳心が高いと思う子育て中の保護者の割合（%）		↗	—	—	—	—	—	—	—
			—	69.0	65.0	67.3	60.8		76.2
家庭教育に関する事業の数と参加者数	①事業の数（回）	↗	297	262	240	243	244	253	321
			253	263	269	267	313		270
	②参加者数（人）		25,560	24,739	16,850	15,939	15,894	14,875	29,440
			14,875	14,136	13,662	12,691	12,791		16,700

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

核家族世帯の増加と市外からの転入世帯が多いという地域性から、子育てやしつけに関して身近に相談できる相手がおらず、孤立しがちな親が多い。また、家庭教育に関心がない親や地域と関わりが不十分な子育て世帯に対し、個人情報等の兼ね合いもあり、手を差し伸べることが難しい現状にある。一方、行政・民間・NPO法人などの子育てに関する事業やサポートが多種多様となり、親の選択肢が増えている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	親が子どもに対してしつけができていると思う人の割合や親への教育・サポートがなされていると思う人の割合は増えており、改善傾向にある。一方で、道徳心が高いと思う保護者の割合は6割程度にとどまっていることや、家庭教育に関する事業への参加者数が伸び悩んでいることを踏まえると、家庭教育に対する保護者の意識がなかなか高まっていない状況にあると考えられる。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
家庭（親）：多くの親が家庭教育に関する正しい知識を得られる	地域（取り巻く人）：地域において、家庭教育支援体制が整備され,きめ細やかなサポートが受けられる		
家庭教育推進事業	子育て支援ネットワーク事業		
家庭教育啓発リーフレット配付事業	生涯学習支援ボランティア育成事業		
子育て支援情報誌配付事業			

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果は、「家庭（親）」と「地域（取り巻く人）」とに整理され、モレなくダブリなく設定されている。
次年度の改善計画	参加者数を増やせるよう、事業のPR方法の見直しを進めるとともに、申し込みの利便性を高める。また、講座等の内容がより魅力あるものとなるよう企画していく。

＊＊＊